



謹賀新年



筑波山から昇る朝日

CONTENTS

1. 新年の御挨拶 2
2. 令和4年度組織・予算案及び令和3年度補正予算（第1号）の決定 3
3. 「G空間EXPO2021 ―デジタル改革、G空間DX!!―」開催報告 5
4. 第13回地理院地図パートナーネットワーク会議を開催 7
5. 「第25回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催
―全国の優秀作品から「国土交通大臣賞」「文部科学大臣賞」「審査員特別賞」を決定― ... 8
6. 「自然災害伝承碑」のウェブ地図「地理院地図」公開数 10
7. 12月の報道発表・2月の主な行事予定 10

国土地理院は、新型コロナウイルス感染拡大防止をはかるため、イベント等の自粛、テレワークの活用等による人との接触を低減する取組を実施しています。



国土地理院長 とび たかのり 飛田 幹男

年頭にあたりご挨拶を申し上げます。

昨年は日本全国で新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言発令や蔓延防止のための措置が長期間に及び、私たちの生活に大きな影響をもたらしました。

そのような中、国土地理院においても、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、テレワークや時差出勤、ウェブ会議システムの活用などの取組を行ってきましたが、これらの取組は多様な働き方を体験する機会となり、今後も引き続き取り組んでいくこととしています。

また、昨年は、国土地理院が実施又は関連する大きなイベントとして、感染防止の対策を講じながら、測量士・測量士補国家試験を9月に実施し、12月にはG空間EXPOをオンライン及び会場のハイブリッド（会場開催は2年ぶり）で開催することができました。地図・測量に関わる皆様の国土地理院へのご理解、ご協力をいただきましたことに、改めて深く感謝申し上げます。

さて、日本政府では、世界の潮流とも言える持続可能な開発目標SDGsを実現するため、創造社会「Society 5.0」やデジタル改革「デジタル・トランスフォーメーション」（DX）に関わる政策を進めています。

これらに関わる国土地理院の業務としては、

- UN-GGIM
- 航空重力測量、地殻変動補正システム
- ベクトルタイル、地理院地図の高度化と利活用促進
- 電子国土基本図の整備・更新
- 自然災害伝承碑、防災地理情報

- SGDAS 等地殻活動や地理空間情報に関する研究開発
- 重要インフラとなり重要度と責任が増す電子基準点の安定運用・強化
- 位置情報の共通ルール「国家座標」
- 先進光学衛星ALOS-3、先進レーダ衛星ALOS-4への対応

などがあり、着実に推進してまいります。

昨年7月に熱海で発生した土石流災害においては、その原因究明に3次元点群データが重要な役割を果たしました。これにより、国土のデジタルツインが国土強靱化に有効であることが示されました。全国の国土強靱化のためには、全国のデジタルツインが必要です。国土のデジタルツインの全国整備は、DX、Society 5.0、SDGs 全てに有効であり、3次元点群データの未整備地区を埋めることは、当面の国土地理院の重要目標となります。今年から、航空レーザ測量を加速し、職員一丸となって、また官民連携により、3次元点群データの全国整備という目標に向けて取り組んでまいります。

更に、令和4年度（2022年度）に高等学校で「地理総合」が必修化となり、国土地理院が提供する各種コンテンツへの責任の重さを改めて感じるとともに、災害に強い持続可能な国土と社会を担う次世代の育成のため、関係機関と連携し、地理教育支援を行います。

令和元年（2019年）6月からウェブ地図「地理院地図」で公開している自然災害伝承碑情報は、令和3年（2021年）11月、ハザードマップポータルサイトの重ねるハザードマップへの掲載を開始し、公開数は同年12月現在1,200基となりました。自然災害伝承碑と浸水想定区域や土砂災害の危険度区域を重ねることで、地域の過去の災害事例とリスクを合わせて見ることができるようになりました。今後も、地域における防災意識の向上や減災に向けた取組、地理教育・防災教育に活用されるよう、強靱な国土づくりのための防災・減災に資する取組を一層進めてまいります。

これら国土地理院が行うべき全ての業務に関しまして、着実な推進を図るため、引き続き皆様のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様にとって令和4年（2022年）が明るく、幸せな良い年となりますように、心からお祈りして、私の年頭の挨拶とさせていただきます。

●組織

政府は、令和3年12月24日の閣議で、令和4年度組織の政府案を決定しました。

◎令和4年度組織案

令和4年度における国土地理院の組織整備については、標高データ整備の加速化、防災地理情報整備・提供業務の体制強化のため、次の組織要求が認められました。

○基本図情報部

- 画像調査課：「標高データベース係」

○応用地理部

- 地理情報処理課：「防災地理情報審査係」

※認められた組織の名称は仮称であり、変更の可能性がります。

●予算

政府は、令和4年度予算案を令和3年12月24日の閣議で決定しました。また、令和3年度補正予算（第1号）が同月20日に成立しました。

◎令和4年度予算案

国土地理院の令和4年度予算案額は、約86億1千万円で、デジタル庁一括計上となった約3億6千万円を含めると約89億7千万円となっています。（次頁別表参照。）

防災・減災が主流となる安全・安心な社会の構築、経済好循環の加速・拡大に向けて、国土を「測る」、「描く」、「守る」、「伝える」という国土地理院の4つの役割を通じ、以下の取組を重点的に行います。

- 流域治水の実現に向けて、指定緊急避難場所データの整備・更新を推進し、防災・地理教育等のためのコンテンツを整備・提供します。（1千8百万円）

- デジタルツインを用いた都市開発や事前防災等の推進、災害時の被災状況の把握に貢献す

るため、様々な目的で誰もが利用できる情報インフラとして3次元点群データを整備します。（1億2千2百万円）

- 地殻変動が発生していても、自動運転等の高精度測位を活用したサービスを利用可能とするため、地図上の位置情報とリアルタイムの位置情報の間に生じるズレをより高度に補正するための開発を行います。（9百万円）

- 3次元地図の整備に必要な新たな技術基準を盛り込むため、作業規程の準則の改正作業を行います。（1千8百万円）

◎令和3年度補正（第1号）

国土地理院の令和3年度補正予算（第1号）額は、約61億1千万円となっています。（次頁別表参照。）

近年の激甚化・頻発化する自然災害を踏まえ、国民の命と財産を守るべく、災害リスクの明確化や迅速な被災状況の把握が可能となる地理空間情報の整備、災害発生時においても電子基準点網を安定的に運用するため、以下の対策を実施します。

- 災害リスクの把握に資する地形分類情報等の基礎情報や迅速な被災状況の把握に有効な高精度標高データを整備し、住民の防災意識の向上や的確な避難、救助活動の支援等に貢献します。（49億3千2百万円）

- 電子基準点網における機器の更新等を実施することで、災害発生時でも、地殻変動監視や位置情報サービスの継続を可能とし、国民の安全・安心の確保や迅速な復旧・復興に寄与します。（11億4千9百万円）

- 国土地理院施設の耐災害性を強化します。（3千2百万円）

令和4年度予算案

(別表)
(単位：百万円)

区 分	予算案額
1. 国土を測る	871
• VLBI 測量	63 (1. の内数)
• 三角点・水準点等の測量	233 (1. の内数)
• 電子基準点測量	523 (1. の内数)
2. 国土を描く	1,214
• 空中写真撮影・正射画像作成	267 (2. の内数)
• 地図情報整備	804 (2. の内数)
3. 国土を守る	539
• 地殻変動等調査	239 (3. の内数)
• 防災地理調査	57 (3. の内数)
4. 国土を伝える	166
• 地理空間情報ライブラリー推進	117 (4. の内数)
5. 測量行政の推進 等	588
6. 国土地理院の運営に必要な経費	5,230
合 計	8,608* (対前年度比 0.93)

※ 令和4年度からデジタル庁一括計上となった3.6億円を含めると89.7億円 (対前年度比 0.97)。

令和3年度補正予算 (第1号)

(単位：百万円)

区 分	予算額
• 地図情報等の整備による被害低減	4,932
• 電子基準点網の耐災害性強化	1,149
• 国土地理院施設の耐災害性強化	32
合 計	6,112*

※ 四捨五入の関係で、各施策の金額の合計とは一致しません。

(総務部)

令和3年12月、「G空間EXPO2021—デジタル改革、G空間DX!!—」（主催：G空間EXPO運営協議会）が開催されました。東京都立産業貿易センター浜松町館（東京都港区）で7日から8日に会場開催、G空間EXPO公式サイトで1日から26日にオンライン開催（オンデマンド）されました。

【G空間 EXPO2021開会式】



中山国土交通副大臣 開会挨拶

G空間 EXPO2021は、地理空間情報高度活用社会（G空間社会）の実現に向けて、国土地理院を含む産学官連携で開催されるものです。

2年ぶりとなった会場開催では、開会式に中山^{なかやま}展宏^{のりひろ}国土交通副大臣が出席され、「社会のデジタル化が加速しており、地理空間情報は今後ますます重要性が増してくる」、「地理空間情報のポテンシャルを最大限に引き出して、経済の発展、防災・減災など、社会問題の解決に取り組んでまいりたい」などと述べられました。

中山副大臣は、開会式後、会場内の各ブースを視察されました。

【国土地理院施策展示】

地理空間情報フォーラム会場において、国土地理院の施策を紹介する展示を行いました。

今回は「防災・減災における国土地理院の取組」をテーマとし、「防災地理情報」「自然災害伝承碑」「防災・地理教育」「熱海の土砂災害への対応」「浸水推定図」「被災状況の把握」「地殻変動の監視・補正」についてパネルで紹介しました。また、50万分1 デジタル標高図（全国版）の床展示、測量用航空機「くにかぜⅢ」で最近まで実際に使用していたプロペラなどの実物、デジタル航空カメラや電子基準点などの模型も展示しました。



飛田院長から説明を受けられる中山副大臣
（於：国土地理院ブース）

【Geo アクティビティコンテスト】

国土地理院は、地理空間情報の利活用に関する魅力的な「取組」、新しい「アイデア」、独創的な「サービス」などを展示・発表で紹介し、来場者や参加者との交流を通じて、優良事例の育成・普及、新しいサービスの創出など地理空間情報の利活用促進を目的として「Geo アクティビティコンテスト」を主催しています。本コンテストは平成24年（2012年）から開始し、今回で10回目となりました。

従来は、G空間 EXPO 会場で参加者がプレゼンテーションを行い、審査委員会による審査を行っていましたが、今回は、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者が予め作成したプレゼンテーション動画等をもとに、産学官の有識者8名で構成された審査委員会が事前に審査する方法としました。

今回会場では、応募の中から選ばれた16者が作品を展示するとともに、7日にはプレゼンテーション動画の上映と表彰式を実施しました。また、プレゼンテーション動画は、表彰式の翌日から26日までオンデマンド配信しました。

なお、受賞作品については、6ページ下部の表をご覧ください。



Geo アクティビティコンテスト 表彰式



最優秀賞の任意団体「HokkaidoWilds.org」
代表 トムソン・ロバート氏

【講演・シンポジウム】

講演・シンポジウムのプログラムの一つとして、国土地理院は「第13回地理院地図パートナーネットワーク会議」を開催しました。午前の部は「ベクトルタイルに関する最近の動向」についての講演等を、午後の部は「防災・地理教育とウェブ地図技術との連携の可能性」について「国土地理院の取り組む教育支援の説明会」との合同セッションを実施しました。詳細は7ページをご覧ください。

G空間 EXPO2021の会場では、事前登録制による来場、検温、手指の消毒、マスク着用など、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた開催となりました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

また、オンラインでは、遠く離れた場所からでも、地理空間情報への理解を深めていただけたことと思います。

国土地理院は、今後も地理空間情報の利活用促進及び普及啓発に努めてまいります。

Geo アクティビティコンテスト 2021年受賞作品

(敬称略)

最優秀賞	UTM グリッド入りの英語表記登山地図 —国内地形図を国際基準に—	任意団体「HokkaidoWilds.org」 代表 トムソン・ロバート
電子国土賞	ベクトルタイル技術を活用した雨量空間分布及び 流域雨量レベル表示	一般財団法人河川情報センター 河川情報研究所 代表 銭潮潮
測量新技術賞	被災状況を克明に記録する「ピピッとカメラ」の 構築	日本大学 経済学部 田中 圭
地域貢献賞	建設ニュースを地図で発信「e-kensin マップ」	株式会社 北海道建設新聞社
防災減災賞	防災アプリ「SHS 災害.infoAR+」	宮崎県立佐土原高等学校
地理教育賞	VR ナゾトキ地形 ~スマホで簡単! 360度立体地 形を楽しもう~	株式会社 ハッピーアロー 森 順子
奨励賞	古地図アプリ Maplat、その後の進化	Code for History 大塚 恒平
	はなもく散歩 樹木と電子地図が融合した自然学 習アプリの開発	株式会社 トンボロ NPO 法人リトカル

※受賞作品をはじめ、参加作品の予稿をG空間 EXPO 公式 HP (<https://www.g-expo.jp/>) 内に掲載していますので、是非ご覧ください。(<https://www.g-expo.jp/geocon/exhibition.html>)

(企画部)

第13回地理院地図パートナーネットワーク会議を開催

令和3年12月8日、第13回地理院地図パートナーネットワーク会議をG空間EXPO2021会場及びオンラインにて開催しました。

■会議の概要

地理院地図パートナーネットワーク (<https://maps.gsi.go.jp/pn/>) は、地理空間情報活用のオープンイノベーションを目指す情報共有・意見交換の場であり、地理院タイルをはじめとする地理空間情報の活用推進のため、国土地理院、受託開発者及びツール提供者がこれに参加しています。令和3年10月現在、107の受託開発者と、74のツール提供者が登録されています。

地理院地図パートナーネットワーク会議は、地理院地図パートナーの情報共有・意見交換の場の1つとして平成26年から開催しており、今回で13回目になります。

■第13回会議の概要

第13回会議は、G空間EXPO2021のシンポジウムの1つとして、令和3年12月8日に開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染症に係る状況を勘案し、G空間EXPO2021会場及びオンラインを併用する方式としました。

午前の部は、「ベクトルタイルに関する最近の動向」をテーマとして実施しました。この中では、ベクトルタイル全体の最近の状況や国連ベクトルタイルツールキット等の紹介、ベクトルタイルのデザインツールである Charites の紹介、登山地図でのベクトルタイルの活用事例の紹介がありました。また、国土地理院からは、国土地理院におけるベクトルタイルの取組状況について紹介しました。

午後の部は、「防災・地理教育とウェブ地図技術との連携の可能性」をテーマとし、国土地理院が別に主催する「国土地理院の取り組む教育支援の説明会」との合同セッションとして実施しました。この中では、地理院地図を活用した授業の事例紹介、地理院タイルを活用した高校用 WebGIS コンテンツの紹介、教育にも役立つウェブ地図コンテンツの紹介等がありました。

当日は、会場及びオンラインの参加者から多くの質問があり、発表者に回答をいただきました。また、会場とオンラインの同時開催については、「じっくり聞ける時間がある場合は会場参加、仕事の合間に参加したい場合はオンライン参加を選択することができる」等、好意的な感想をいただきました。

■動画配信

当日の会議の様子は、YouTube の[地理院地図パートナーネットワーク会議チャンネル](#)から視聴することができます。(地理院地図パートナーネットワークのウェブサイトからもアクセスできます。)



G空間EXPO2021会場(会議室)における会議の様子



G空間EXPO2021会場(会議室)における会議の様子

(地理空間情報部)

「第25回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催

—全国の優秀作品から「国土交通大臣賞」「文部科学大臣賞」「審査員特別賞」を決定—

全国児童生徒地図作品展連絡協議会（事務局：国土地理院）は、「第25回全国児童生徒地図優秀作品展」に推薦された作品の中から「国土交通大臣賞」「文部科学大臣賞」「審査員特別賞」を選定しました。

「第25回全国児童生徒地図優秀作品展」（主催：全国児童生徒地図作品展連絡協議会）は、全国13地区の児童生徒地図作品展から推薦された優秀作品を一堂に集め、全国4会場で開催しています（うち2会場は開催済み）。集められた作品の中からより優秀な作品として「国土交通大臣賞」「文部科学大臣賞」「審査員特別賞」を選定しました。また、奨励賞を9作品に授与しました。

●国土交通大臣賞

「集中豪雨からまちを守れ！松川雨水貯留施設のはたらき」

富山県富山市立堀川小学校 6年
ひめのりお
姫野 理央さん



[作品主旨文]

近年、地球温暖化による集中豪雨が各地で様々な災害を引き起こしています。富山市は、その対策として「松川雨水貯留施設」を整備したことを知りました。この施設は地下にあり、普段は目にする事ができないため、道路部分を透明にし、立体地図で表現しようと考えました。この作品を通して、集中豪雨から私たちの暮らしを守るため

には、これだけの施設が必要なほど、地球温暖化の危機が迫っていることを伝えたいと思い、作成しました。

●文部科学大臣賞

「伊央里の水辺環境 MAP」

岐阜県岐阜市立合渡小学校 4年
ばんいおり
坂 伊央里さん



[作品主旨文]

ぼくは、昨年、長良川淡水魚 MAP を作り、魚には環境が大事だと知りました。そこで今回は水辺の環境を調べました。

水辺はすべてつながっているから人間だけでなく、全ての生き物にとって良い環境を作ることが大切だと思いました。

●審査員特別賞

「野生動物からの被害大調査」

茨城県常陸太田市立久米小学校

5年 齊藤 葉菜さん、降矢 ことみさん
 6年 川村 文美さん、菊池 陽葵さん
 窪谷 来春さん、黒羽 柚妃さん
 城 菜々美さん、茅根 彩純さん
 平塚 世奈さん



【作品主旨文】

学校や祖父母宅の畑の被害や通学路の柵やネットが増えている状況が気になり、久米小学区内の野生動物の被害について調べてみました。在校生にアンケートをとり、地域の方にインタビューしながら徒歩で調査し、市役所の資料も加えてまとめました。その結果、いろいろな種類の動物からの大きな被害があること、対策も始まっていることがわかりました。また、耕作放棄地の増加や農業人口の減少等の問題に気づくことができました。

●奨励賞

僕の街の土砂災害ハザードマップ	札幌市立円山小学校 5年 福川 皓貴さん
バリアフリーによる視覚障害者への配慮	仙台市立第一中学校 2年 宮武 京花さん 菊地 真歌さん
そよ風の道ウォーキングマップ	多摩市立南鶴牧小学校 4年 尾山 基さん
広島路面電車、安全への取り組み ～次世代型路面電車「LRT」～	広島大学附属小学校 4年 高田 啓介さん
赤穂かるた絵マップ	赤穂市立塩屋小学校 5年 池淵 翔月さん
大型トラックはどこへ行く？ ～密着！父の仕事～	鳥取市立散岐小学校 5年 田淵 琴美さん
熱海伊豆土石流災害 ～盛り土に焦点を当てて～	広島市ノートルダム清心高等学校 1年 梶山 真央さん 新見 ひなさん もりやま なつ菜津さん
「歩いて調べた」 渋野町アグリマップ	徳島市立渋野小学校 5年 米田 知永さん
近江うまいもんマップ ～今までと、これからと、 みんなの想いと～	湖南省立石部小学校 6年 米崎 仁翔さん

全国児童生徒地図優秀作品展

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/sakuhin>

【展示場所・期間】 ※開催中及び開催予定

1/4 (火) ～ 2/20 (日) 地図と測量の科学館

2/25 (金) ～ 3/7 (月) NHK 大阪放送会館

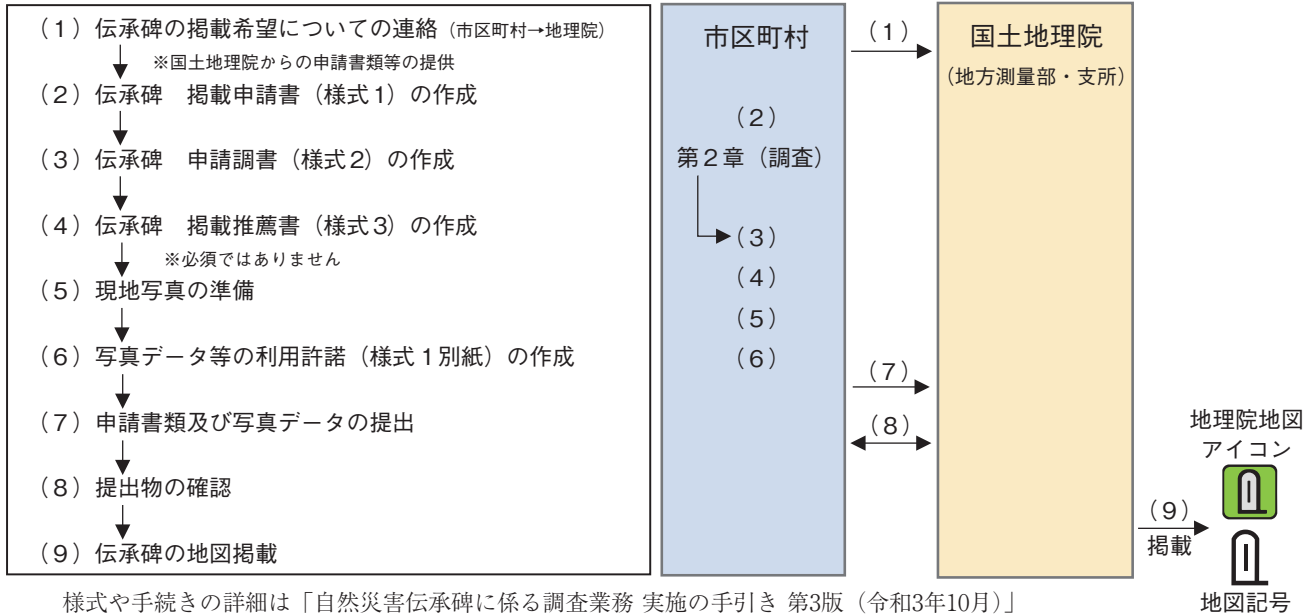
アトリウム

(総務部)

47	都道府県	367	市区町村	1224	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。
 [市区町村の担当者の皆様へ] 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第3版 (令和3年10月)」
<https://www.gsi.go.jp/common/000235746.pdf> をご覧ください。

12月の報道発表

8日	令和3年11月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
24日	令和4年度 国土地理院関係当初予算について ～防災・減災が主流となる安全・安心な社会の構築、経済好循環の加速・拡大に向けて～	企画部
27日	第25回全国児童生徒地図優秀作品展を開催 —全国の優秀作品から「国土交通大臣賞」、「文部科学大臣賞」、「審査員特別賞」を決定—	総務部

報道の内容は、国土地理院ホームページ>2021年 報道発表資料
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2021> をご覧ください。

2月の主な行事予定

1/4~ 2/20	第25回全国児童生徒地図優秀作品展
-----------	-------------------

行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止又は延期となる場合があります。

国土地理院広報は、
 国土地理院ホームページ>広報誌>国土地理院広報
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/> に掲載しています。

発行 **国土交通省国土地理院**
 Geospatial Information Authority of Japan
 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
 TEL 029-864-6255
 FAX 029-864-6441
 連絡先：総務部広報広聴室
 国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>